

# ゆとりある豊かな地域農業の確立

～ 魅力！活力！省力！次代につながる地域農業～

活動年次：令和3～4年

留萌農業改良普及センター本所

## 1 課題設定の背景

対象：羽幌町築別2地域 7戸

若手農業者が多く、規模拡大が進行

令和3年度に水稻専業農家1戸が離農し、2戸が農地を受け入れ

水稻では、**湛水直播栽培**が導入され、**実践面積・戸数**が増加

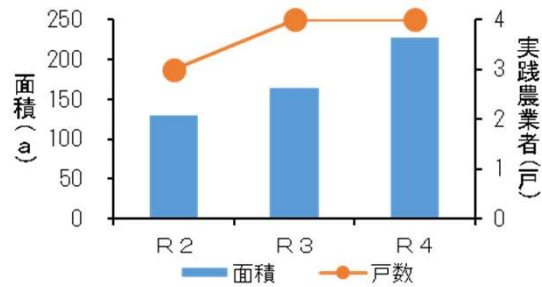


図1 直播面積と実践農業者数の推移

規模拡大に伴う労働力不足対策の検討・水稻省力栽培技術の向上が必要

## 2 活動の経過

### 水稻省力栽培（湛水直播栽培）技術の向上

#### 生育・作業に応じた水管理

- ・苗立本数確保に向けほ場の均平及び硬度、は種深度などが適正となるように支援した。
- ・ドローンの航空写真により滞水部分を見える化し、溝切りによる排水改善を提案した。
- ・出芽以降は各ほ場の生育状況に合わせた水管理や除草剤使用を提案した。



写真1 は種床の硬さをゴルフボールで確認



溝切り施工前

溝切り施工後

写真2 溝切りによる排水改善

#### 生育状況に応じた栽培技術の提案

表1 生育状況に基づいた追肥の実施結果

	6/8	6/30		追肥
	苗立本数	m <sup>2</sup> 茎数	SPAD	
A	162	237	39.2	実施
B	186	278	40.0	実施
C	185	270	42.0	未実施
F	189	243	38.3	実施
平均	180	257	39.9	—

#### 直播講習会の開催



- ①鳥害対策及び除草剤処理、②追肥のタイミング、③倒伏軽減剤の散布に関する情報を発信した。

重点地域以外の農業者も対象にして、直播技術の波及を図った。

3 活動の成果 \*\*\*\*\*

目標事項: 水稻湛水直播技術実践80点以上農家戸数 目標 4戸 実績 4戸

表2 水稻湛水直播栽培技術の実践状況

適切な湛水直播栽培技術が実践された

技術実践項目	ポイント	評価指標	R2	R3	R4				平均
					A	B	C	F	
1 適切な種子予措	催芽、コーティングの状態	状態悪0 ~ 状態良10	2	5	9	9	10	9	9
2 適切な代かき(土壌硬度)	は種時の田面の硬さ	柔・硬0 ~ 適正10	2	6	8	7	9	7	8
3 ほ場均平の確保	は種時に達観	排水悪0 ~ 排水良10	4	5	7	8	10	9	9
4 適期は種(5/20まで)		遅・早0 ~ 適期5	0	5	5	5	5	5	5
5 適切なは種量(9kg)	種の準備、は種量の確認	多・少0 ~ 適正10	5	6	9	9	9	9	9
6 適切な水管理	各ステージ(落水・浅水・深水)で合算	不適正0 ~ 適正25	13	15	20	20	22	20	21
7 茎数に応じた適正施肥	3年間は普及が調査して提案、実施を評価	未実施0 ~ 実施10	6	8	9	9	9	9	9
8 適切な除草作業	除草剤処理。収穫前の残草で判断	残草多0 ~ 残草少10	7	7	10	7	10	10	9
9 倒伏の回避	茎数管理、倒伏軽減剤処理	倒伏多0 ~ 倒伏少10	3	8	7	10	7	10	9
総合的な判定	令和4年度に80点以上を目標	100	42	62	84	84	91	88	87
	苗立本数(m <sup>2</sup> 当たり、指標は150本)	-	120	154	162	186	185	189	180
	収量(kg/10a、目標は510kg/10a)	-	446	537	521	646	617	548	583

※令和2年は実践農家3戸(A、B、F)の平均、令和3年度からは4戸の平均

苗立本数が向上

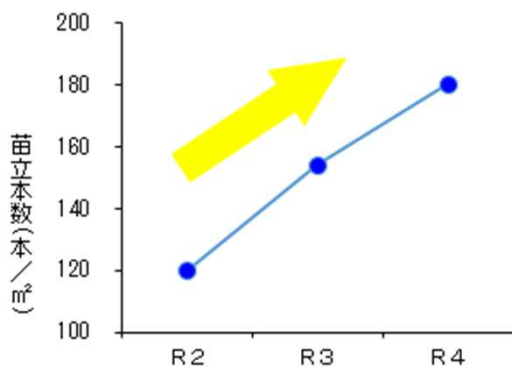


図2 年次別苗立本数

収量が令和2年より137kg/10a増加  
移植栽培との収量差も縮小

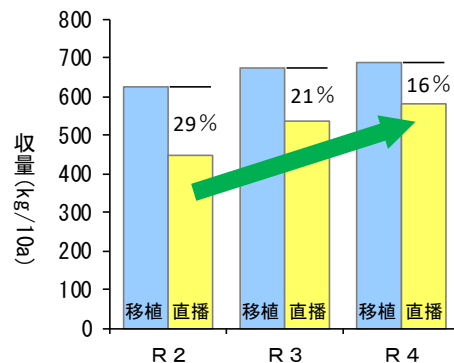


図3 移植栽培との収量差

【特に改善された項目】

- ・ほ場均平の確保
- ・溝切りによる排水の徹底
- ・適切な水管理

実践農業者自身も実践技術の重要性を実感した。

4 今後の活動 \*\*\*\*\*

- ・直播栽培の収量・品質安定化に向けて取り組み技術の確認を行う。
- ・直播栽培技術の更なる省力化や、低コスト化に向けた支援を行う。